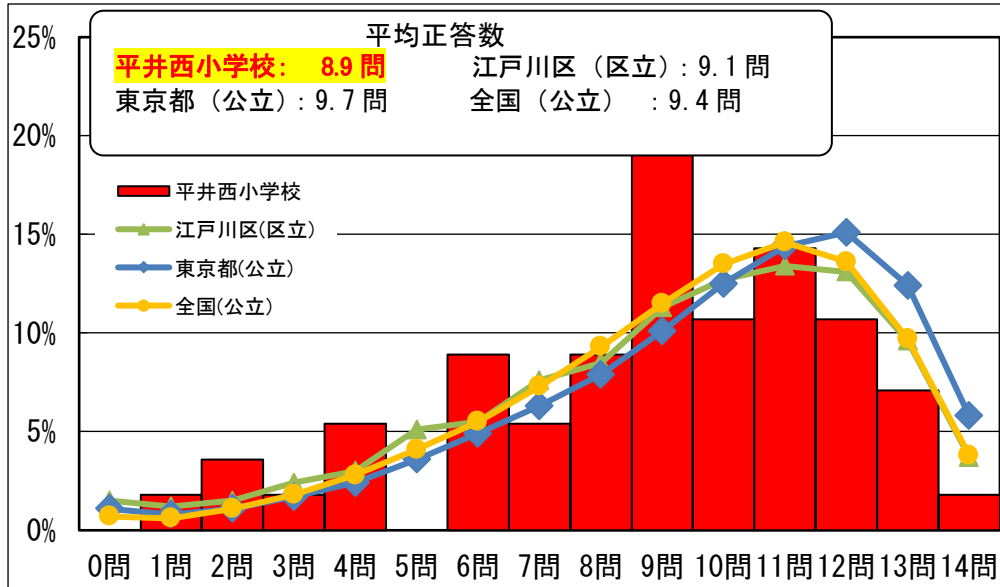


令和5年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【国語】 平井西小学校

正答数分布



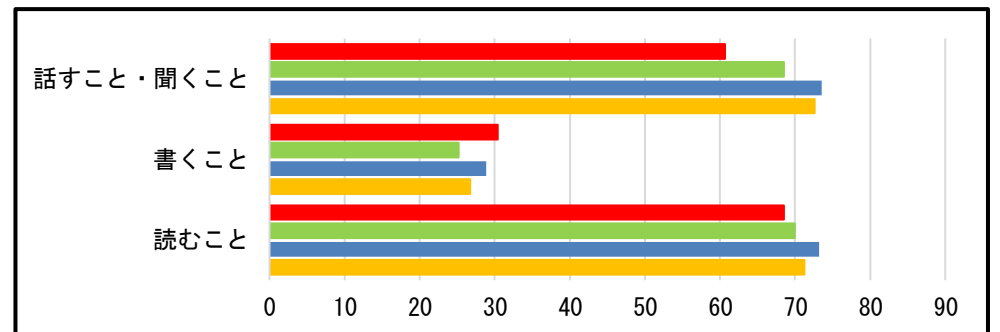
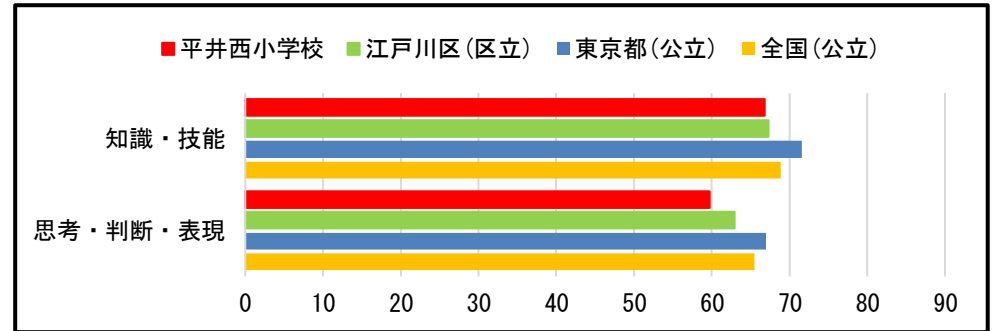
<四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← → 下位

国語	A層 12~14問	B層 10~11問	C層 8~9問	D層 0~7問
平井西小学校	11	14	16	15
江戸川区(区立)	26.4	26.1	19.8	27.7
東京都(公立)	33.3	26.9	18.0	21.8
全国(公立)	27.1	28.1	20.8	24.0

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【平均正答率の差】

平井西小学校	63%
江戸川区(区立)	65%
東京都(公立)	69%
全国(公立)	67.2%
都との差	6ポイント

%

【分析結果と授業改善に向けて】

「A 話すこと・聞くこと」は本校 60.7%都 73.5%全国 72.6%となっており、正答率が低い。「情報の扱い方に関する事項」については、原因と結果・文章と図表など、情報と情報の関係について理解できるようにすること、「話すこと・聞くこと」については、話の内容を捉え、必要なことを質問できるようにすることが必要である。

「話す・聞く」に関しては、日頃の学習の中で、「伝える」「自分の理解が合っているか確認する」「質問する」「自分の考えと比べる」など活動のステップを細かくし、今何について話しているのか明確に把握する習慣を身に付けられるようにする。日常的に児童相互の対話の場面を意図的に設定し、互いの考えの共通点や相違点について比較し、考える機会をもたせることで、他者の考えを認め・尊重するとともに、批判的なものの見方を育てられるようにする。